

第6学年 社会科 学習指導案

授業者 東京都北区立豊川小学校

第6学年担任 佐藤和紀

1. 単元名「武士の世の中へ」

2. 単元の目標

(1) 武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産を通して、武士による政治が始まったことがわかるとともに、それらにかかわる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味を考えようとする。

(2) 武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産から学習問題を見だし、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、武士による政治が始まったことやそれらにかかわる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味について思考・判断したことを適切に表現する。

3. 単元観（学習指導要領との関連、児童の実態、教師の願い）

本小単元は、学習指導要領第6学年<2内容> (1)「我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。」のウ「源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦い、京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について調べ、武士による政治が始まったことや室町文化が生まれたことが分かること」を受けて設定したものである。

この内容の中の「源平の戦いについて調べる」とは、平清盛や源義経の活躍などを取り上げて調べ、平氏と戦った源氏が「どのような背景と要因」で勝利を収めたのかが分かるようにすることである。源平の戦い以降、元寇、応仁の乱、長篠の戦い、関ヶ原の戦い、日露、日新、日中戦争、第二次世界大戦と戦いや戦争を通して、文化や時代の変化を捉えていく。小学校社会科の歴史的分野において、長期的な戦いを具体的に扱うのは源平の戦いが初めてである。源平の戦いの調べ学習を通して具体的に歴史的事象を調べ、表現する活動を通して、時代の変化を捉えさせたい。

源平の戦いや源義経に関する出来事には、「事実」とは別に「伝説」や「逸話」として語り継がれているものも多い。本時で取り扱う「一の谷の戦い」の「逆落とし」についても未だに議論されている歴史の一つである。平家物語では、義経の勇氣ある決断と勇敢な姿が描かれている。しかし、実際に一の谷の戦いは、場所が不確かであり、かつ地形は急な斜面であったことから、本当に馬で駆け下りることができたのか疑問に残る。このように不確かで曖昧な歴史について、それを教科書通りに鵜呑みにするのではなく、様々な資料を調べたり友達の意見を聞いたりする活動の中で、歴史に対して自分なりの意見をもたせたい。

児童は学習に対して「受動的」な姿勢で学習に取り組む児童が多い。出された課題に対しては真面目に集中して行うことができるが、発言や発表となると尻込みしてしまう傾向にある。協働的学習で問題解決を行っていく中で、主体的に問題へ取り組むことの楽しさを養いながら、自信をと自分の意見を言える姿勢を養いたい。

4. 単元の評価規準

- ・ 武士の暮らし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な

文化遺産に関心をもち、進んで調べようとしている。(社会的事象への関心・意欲・態度)

- ・ 武士のくらし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、武士による政治が始まったこととそれらにかかわる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味などについて思考・判断したことを、年表や文章、作品などに適切に表現している。(社会的な思考・判断・表現)
- ・ 武士のくらし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きや代表的な文化遺産について、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して必要な情報を集めて読み取り、白地図や年表、作品などにまとめている。(観察・資料活用の技能)
- ・ 武士による政治が始まって新たな時代を迎えたこと、源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武士がより大きな力をもつようになったこと、元との戦いが鎌倉幕府の全国支配に大きな影響を及ぼしたことなどがわかっている。(社会的事象についての知識・理解)

5. 単元指導計画 (10 時間) と評価基準 本時 5 時間目

	本時の問い	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	☆評価規準
出会う	武士の登場と武士のくらし (1 時間) 武士とはどのような人々で、どのようなくらしをしていたのか。	○「武士のやかたの様子(想像図)」を見て、武士の生活の様子、武士と貴族のちがいなどについて、気づいたことを話し合う。 ・ 貴族が都で華やかな生活をしていところ、地方の有力農民は領地を拡大し、自分の領地を守るために武芸に励み、武士となったこと。	◆イラストは想像図であることに留意しつつ、武士のイメージをふくらませることができるよう指導する。	☆<関意態> 武士の生活の様子、武士と貴族との違い、武士の思いや願いについて関心をもっている。
つかむ	武士の政治の始まり (1 時間) 武士はどのようにして勢力をのぼしていったのか。	○平清盛を中心とした平氏の活動、平氏による武士の政治の始まりについて調べる。 ・ 武士の中には武芸を認められて朝廷や貴族に仕え、大きな力をつけていくものが現れ、そうした武士団の中では、源氏と平氏の勢いが特に強かったこと。 ・ 平清盛を中心とする平氏が貴族の藤原氏に代わって政治を行うようになったが、平氏が政治を思うままに動かすようになると、次第に貴族やほかの武士たちの間で不満が高まっていったこと。	◆貴族の藤原氏が行った政治と武士の平氏が行った政治の共通点と相違点について考えさせる。	☆<技能> 武士の政治の始まりについて絵図や年表などの資料を活用して調べ、武士が力をつけて政治を動かすようになっていったことを読み取ってまとめている。
調べる・深める	源氏と平氏が戦う (3 時間) 源平の戦いで、源氏はどのように平氏を破ったのか。	○源平合戦の始まりから義経滅亡までの経過について調べる。 ・ 源頼朝が平氏を倒そうと兵を挙げると、自分たちの領地を認めてくれる新しい頭を求めていた武士たちが次々に集まり、弟の源義経に率いられた軍が平氏を滅ぼしたこと。	◆義経や義仲など活躍した人物注目させ、源氏が勝った理由を考えさせ、次時へと疑問がつながるようにする。	☆<技能> 主要人物、地名、軍事力など、勝敗要因となる情報を教科書、資料集から読み取って白地図に源平の戦いの過程を表現している。

	(3時間)	○源平の合戦の調べ学習を通して、疑問に感じたこと、不思議に思ったことを書き出して問題づくりを行う。	◆源平の合戦の戦いの様子や場面、戦術などに注目させたり、平氏の立場から戦いを振り返らせたりして、「なぜ」や「どのように」といった形で問題づくりをさせる。	☆<思判表> 調べ学習を通して、基本的な知識を元に源平の合戦に関する疑問を書き出している。
		○前時に作成した問題を解決するために、グループで調べ学習を行い、議論する。 <u>(本時)</u>	◆予め議論の証拠、根拠となる資料を調べさせておく。	☆<思判表> 議論の証拠となる資料やデータを収集して、提示したり発言したりしている。
調べる	頼朝が東国を治める(1時間)	○鎌倉の地図やご恩と奉公の関係図、政子のうったえなどをもとに鎌倉幕府の特色について調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ・源頼朝はご恩と奉公の関係で武士を従えたこと。 ・承久の乱の後、鎌倉幕府の力は西国にまで及ぶようになり、執権の北条氏を中心とした幕府は法律や裁判の制度を整えて支配力を強めていったこと。	◆源頼朝と武士の関係については、ご恩と奉公という言葉キーワードにして、守護・地頭に任命することや領地の所有と関連づけて考えさせる。	☆<知理> 鎌倉幕府がご恩と奉公の関係で武士たちを従えたことや、朝廷の軍を破ってその力が西国にまで及ぶようになったことがわかっている。
	元の大軍がせめてくる(1時間)	○元との戦いや鎌倉幕府の衰退について調べ、わかったことや考えたことを話し合う。 ・武士たちは、元軍の集団戦法や火薬兵器(てつほう)などに苦しみながら、恩賞を得るために一所懸命に戦い抜いたこと。 ・鎌倉幕府は、元との戦いで活躍した武士たちに新しい領地を与えることができず、ご恩と奉公の関係で結びついていた幕府と武士との関係が崩れていったこと。	◆元との戦いにおける武士たちの活躍については、ご恩と奉公の関係と関連づけて考えさせる。	☆<思判表> 鎌倉幕府が衰退した理由を元との戦いと関連づけて考え、元との戦いのちご恩と奉公の関係で結びついていた幕府と武士との関係が崩れていったことを表現している。
まとめる・いかす	学習のまとめ 武士の発生から元寇までを年表にまとめる。(1時間)	○武士の発生から元寇までを年表にまとめる。	◆年表にまとめる際には、基礎的・基本的知識の習得に留意する。	☆<思判表> 武士の発生から元寇までの主なできごと、人物の願いや働きを相互に関連づけて振り返り、本単元の学習で習得した「ことば」を使って、年表やせりふに表現している。

6.本時の指導

(1) 本時の目標

一の谷の戦いの逆落としについて調べ学習を行い、資料から自分なりの根拠をもとに、自分の意見をもつことができる。

(2) 本時の展開

	学習活動と内容 ・ 教師の発問	・ 指導事項 ■ 評価
導入 10分	<p>1.前時までの学習を振り返る。 発問「一の谷の戦いの資料を読み比べてきました。今日は4つの写真を最初に見てみましょう。同じ事を描いているのにそれぞれの表現が違いますね。」</p> <p>2.本時のめあてを確認する。 ・「今までは資料でしたが、今日はインターネットでも一の谷の戦いについて調べて検証しましょう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4枚の写真を電子黒板でスライドして見せながら黒板に貼る。
	<p>本時のめあて 一の谷の合戦で逆落としは「可能だったか」について、資料を比較して検証しよう。</p>	
展開 30分	<p>3. 学習の手順を確認する。</p> <p>①資料を探す。(20分) グループ活動 【インターネット】 ・ キーワード 一の谷、義経、逆落とし、鶴越・・・</p> <p>②資料を比較する。(5分) グループ活動 ・ 今までの資料を確認しながら、付箋に理由を書く。 ・ 言葉に注目して根拠にする。</p> <p>③根拠を元に結論を出す (5分) 個人活動 ・ 短冊に理由を書く。 ・ 赤：可能、灰色：わからない、青：不可能</p> <p>4. 調べ学習を進める。</p> <p>5. グループで資料を比較する。</p> <p>6. 根拠を元に結論を出し、短冊に根拠を書いて黒板に貼る。</p> <p>7. 結論とその理由を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一の谷の戦いに関わるキーワードを示して、検索する際の手だてにする。 黒板に手順と留意することを示す。 パソコンと iPad を使う。 ■議論の証拠となる資料やデータを収集している。(行動、思判表) 机間指導を行い、良い意見を書いている児童の付箋を iPad で撮影しプロジェクターに転送する。 ■調べ学習や友達の意見を通して自分なりの意見を書いたり、発表したりしている。(発言、短冊、思判表)
まとめ 5分	<p>7.本時のまとめを行う。 ・「一の谷の戦いに関しては、いまだに議論がされている歴史上の出来事の一つです。歴史をただ鵜呑みにして覚えるのではなく、歴史を学習していく上で、今日の授業のように疑問をもって取り組んでいくことで、出来事の背景が見えてきます。」</p>	